

新潟市歴史資料だより

平成18年3月31日
第2号

平成17年度事業概要

多くの方々のご協力を得て資料の公開、保存などに関する事業を実施しました。その概要を紹介します。

■ 資料の公開

複製資料や図面・写真などの閲覧・複写等を利用いただきました。今年度の一般利用件数は、次のとおりです。

(平成18年3月20日現在)

	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	17	9	35	5	4	70
複写	59	26	107	6	23	221
掲載	6	0	2	0	54	62
計	82	35	144	11	81	353

■ 資料の保存

①資料の整理

新潟町の中心的鋳物師の一人であった土屋家から寄贈を受けた文書(土屋家文書)を整理しました。資料点数980点余。また、澤家文書(中之口)、水沢新田文書(潟東)の追加文書群などの整理のほか、故渡辺秀英氏所蔵書籍の整理に着手しました。

②複製本の作成

次の複製本を作成しました。B5判、1冊約80ページで、ともに県指定文化財です。

・新潟市上水道敷設関係資料

明治27年から昭和32年までの資料で、複製簿冊数は443冊。(3ページ「資料紹介」参照)

・亀田町上水道敷設関係資料

昭和7年から17年の資料で、複製簿冊数は8冊。

■ 資料の調査収集

①資料所在調査

個人所蔵や区有の資料について、中之口地区・潟東地区で計27か所の所在確認調査を実施しました。江戸時代から昭和期にいたる、文書、写真、戦時中の記録などの多数の資料が保管されていました。今後も調査を継続します。

②歴史的公文書の引継ぎ

保存期間を過ぎた市役所関係の公文書の中から歴史的な文書を選定し、引継いで保存しています。

今年度は、合併市町村の公文書も含め、文書を選定しました。

■ 『新・新潟歴史双書1 新潟市の伝説』

合併により、記述する市域が大きく広がったため、『新潟歴史双書』を『新・新潟歴史双書』と改め、判型もB6判から四六判に変えて刊行しました。

- 第1冊目の『新潟市の伝説』は、市域各地の伝説を地域別に掲載しました。所収伝説数は146話。
- 市町村史などに記録されている伝説を基に、県民俗学会の佐藤和彦・高橋郁子両氏から執筆していただきました。



- 市歴史博物館と市内の一部書店で4月下旬から、1冊810円(消費税を含む)で販売します。

■ 講座の開催「古資料が語る新潟の歴史」

平成17年11月7日・14日・21日、12月5日の4日間、下記内容で1日各2講座を実施しました。4日間の平均参加者数は72名でした。最終日のアンケート調査では、講座内容などについて多くのご意見をいただきました。次回の参考にさせていただきます。

(講座内容・講師)

- ①上杉謙信・景勝の手紙で戦国時代の新潟を見る(阿部洋輔 元新潟市史主任編集員)
- ②的場遺跡出土の文字資料からみた古代の新潟(相沢央 歴史文化課)
- ③古資料が語る新潟の歴史—写真に注目(本井晴信 新潟県立文書館副館長)
- ④江戸時代の新潟町を絵図でみる(藤塚明 歴史文化課)
- ⑤近世新潟港町形成期の資料を読む(中村義隆 新潟郷土史研究会前会長)
- ⑥近世資料が語る会津藩の廻米、御用塩輸送と新潟町(富井秀正 歴史文化課)
- ⑦御雇外国人バルトンの新潟市上水道調査報告と新潟市の上水道敷設(本間恂一 新潟市文化財保護審議会委員)
- ⑧日記からみた敗戦前後の新潟(今野誠 歴史文化課)

(アンケート結果)

	良い(満足)	普通	悪い(不満足)
開催回数	27人	21人	11人
開催時期	20	15	24
受付・接客	45	14	0
1日講座数	32	13	14
1講座時間	24	17	18
講座内容	25	19	15

受贈資料（平成17年度）

多くの図書・刊行物のほか、次の古文書等の寄贈を受けました。（敬称略）

- ・星野恒関係文書（和本・筆写史料・原稿ほか）
…新潟市 星野邦彦
- ・「昭和12年5月末日鳥屋野村村勢一覧表、鳥屋野村全図」
…新潟市 舟山吾朗
- ・昭和17年「慰問のしるし」（折本）
…新潟市 石崎マツミ
- ・明暦2年「円機活法」ほかの和本
…新潟市 菅井隆一
- ・吉田初三郎画「新潟市鳥瞰図」
…京都市 阿瀬太紀
- ・佐藤家文書（近代）
…新潟市 佐藤 實
- ・土屋家文書及び民具（近世・近代）
…新潟市 土屋ミサ
- ・越後国全図（近世後期）
…名古屋市 落合初美

歴史文化施設紹介—しろね大風と歴史の館—

中ノ口川と信濃川に囲まれた白根郷のほぼ中央部の中ノ口川寄りにあります。平成6（1994）年に開館しました。

中ノ口川をはさんで行われる白根大風合戦は、300年の歴史をもつ伝統行事です。毎年6月初旬に行われ、初夏を彩る一大イベントとなっています。

館内では、この大風合戦を立体映像で見ることができます。1階には実物大（24畳）の大風や風合戦の歴史が、2階には日本と世界の様々な風が約800点展示してあり、世界最大級の風の博物館です。2階「風工房」では風作りが体験でき、作った風を「風洞実験室」で揚げることができます。

歴史展示コーナーでは、水との戦いや人々の暮らしをテーマに、考古・歴史・民俗資料の展示を通じて白根郷の移り変わりを紹介しています。

また、中ノ口川対岸の味方地区には、重要文化財笹川邸と曾我・平澤記念館があります。

〈案内〉

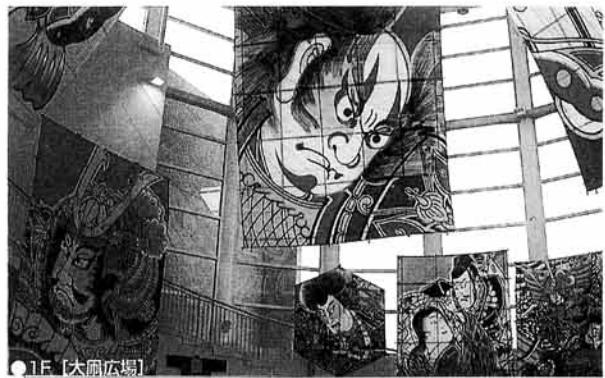
- ・所在地：新潟市上下諏訪木1770-1
- ・開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）
- ・休館日：水曜日（休日の場合は翌日）、年末年始
- ・観覧料：大人400円、小・中・高校生200円、団体割引あり。土・日・祭日は小・中学生無料
- ・問合せ：TEL (025) 372-0314 Fax (025) 372-0316
- ・交通（バス）：万代シティバスセンター発「白根・潟東営業所行き」及び、新津駅発「矢代田経由潟東営業所行き」または「臼井経由潟東営業所行き」。ともに「白根健生病院前」下車。徒歩約10分。

黒崎市民会館 歴史展示コーナー

4月21日（金）に黒崎市民会館（鳥原909番地1）が開館する予定です。

1階ロビーには、黒崎地区の歴史を紹介する小コーナーがあります。

小コーナーには最初の展示として「黒崎の人・むかし・いま」の題で、自由民権運動で活躍した木場の山際七司や、大河津分水工事・中ノ口川堤防工事に尽力した黒鳥の鷲尾政直など、黒崎地区の先人に関する資料や、黒崎地区の昔と今の風景写真を展示します。



「大風広場」—実物の大風—



「歴史展示コーナー」—昔の農家（模式復元）—

〈案内略図〉



収蔵資料紹介 ②

■ 新潟市上水道敷設関係資料

明治27(1894)年から昭和32(1957)年にわたる新潟市水道関係の資料で、簿冊194点、印刷物12点、写真類23点、図面類29点があります。

新潟市水道局で永久保存文書として保管され、平成15年に新潟県文化財(歴史資料)に指定され、現在は、歴史文化課で保管しています。

明治期の簿冊には、「上水道ニ関スル決議書」「新潟市上水道設計書」「参事会決議書」「新潟市水道部委員会議事録」「請負工事ニ関スル参事会決議書類綴」の外、昭和期にわたる「上水協議会関係書類」などがあり、資料の約半数が明治期です。

大正・昭和期の簿冊は、「給水料免除ニ関スル書類」「水道使用条例」「東新潟水道敷設ニ関スル書類」「上水道拡張ニ関スル重要書類綴込帳」「節水宣伝ニ関スル書類」「上水道の防空対策等に関する綴」などです。

写真類は、寺地取水所・小新砂溜所・西川水管橋・関屋開渠・南山浄水池表門など、図面類は、「新潟旧水道図」「新潟市水道浄水池之図」「新潟市水道工事設計図」などです。

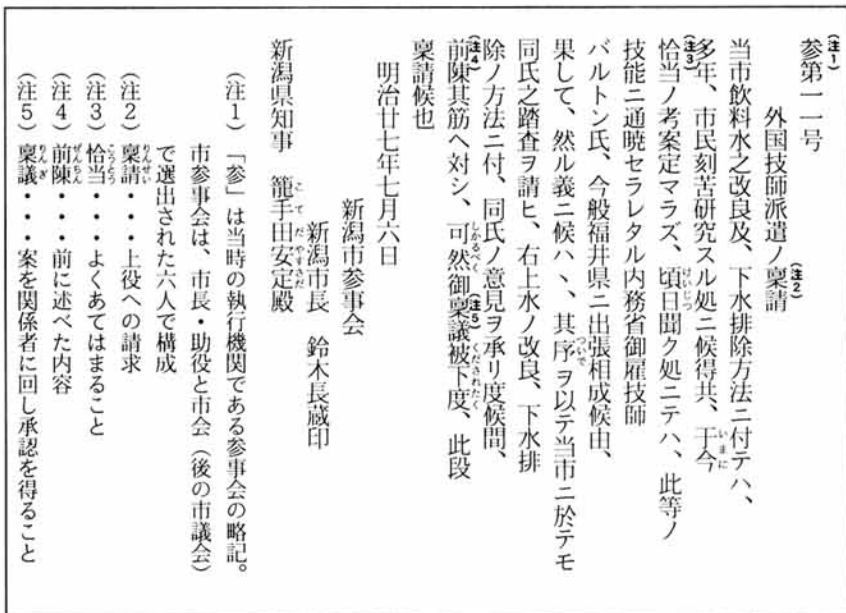
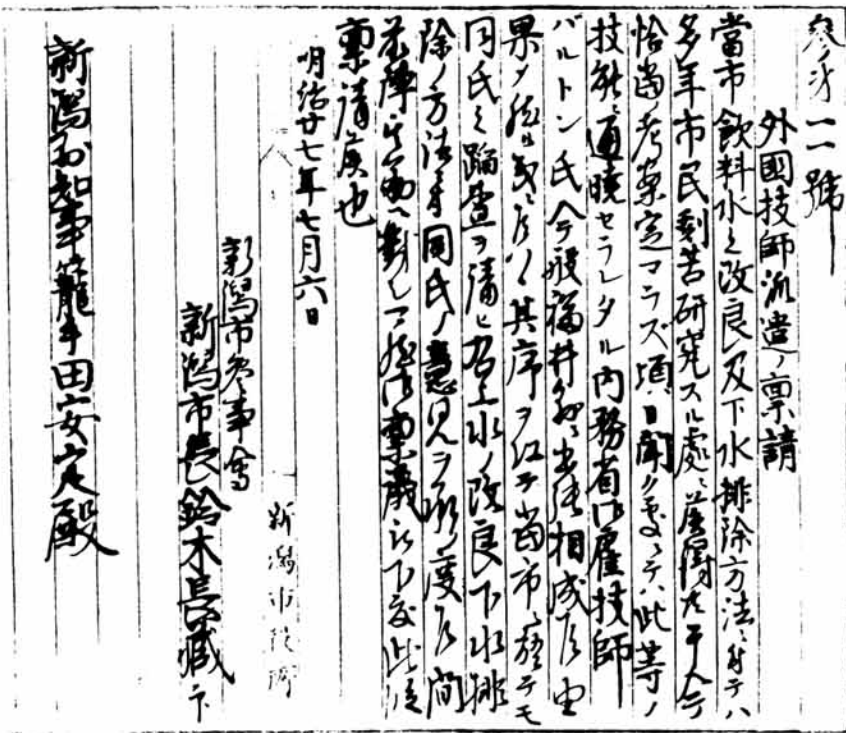
右の掲載文書は、「水道ニ関スル書類」(明治27~34年)中の、県あての「外国技師派遣ノ稟請」です。

新潟町の人々は、ほとんどが信濃川の水を飲料水に使っていました。

明治13年以降、私営水道が引かれますが、木製樋管による前近代の水道で不衛生であり、利用者も、町の中心部の人々だけでした。

新潟市は、市営の近代水道を敷設するため、内務省の御雇外国人バルトンに調査を依頼することにし、明治27年7月6日、新潟県にこの文書を提出しました。文書の内容は、飲料水の改良と下水排除の方法に精通しているバルトンが福井県に出張することになったそうだから、その際、新潟市にも寄って調査を願いたいので、内務省に斡旋してほしいという要請です。この要請は認められ、バルトンは同年7月12日から21日まで新潟市を調査し、地下水を取水して水源にすることを提案しました。これが、市営近代水道に関する初めての調査でした。

その後、市は他の専門家にも調査を依頼し、最終的には信濃川から取水して、上水道を敷設することになりました。市営水道が通水したのは、バルトン調査の16年後の明治43年です。給水計画人口は6万5000人で、大規模な近代水道としては、全国で14番目であったといわれます。



〔注1〕 参第一二号

外国技師派遣ノ稟請

当市飲料水之改良及、下水排除方法ニ付テハ、

多年、市民刻苦研究スル処ニ候得共、于今

恰當ノ考案定マラス、頃日聞ク処ニテハ、此等ノ

技能ニ通曉セラレタル内務省御雇技師

バルトン氏、今般福井県ニ出張相成候由、

果して、然ル義ニ候ハ、其序ヲ以テ当市ニ於テモ

同氏之踏査ヲ請ヒ、右上水ノ改良、下水排

除ノ方法ニ付、同氏ノ意見ヲ承リ度候間、

前陳其筋ヘ対シ、可然御稟議被下度、此段

稟請候也

明治廿七年七月六日

新潟市参事会
新潟市長 鈴木長藏印
籠手田安定殿

〔注1〕 「参」は当時の執行機関である参事会の略記。

市参事会は、市長・助役と市会(後の市議会)で選出された六人で構成

〔注2〕 稟請・・・上役への請求

〔注3〕 恰當・・・よくあてはまること

〔注4〕 前陳・・・前に述べた内容

〔注5〕 稟議・・・案を関係者に回し承認を得ること

■ 新潟地震記録写真

昭和39(1964)年に発生した新潟地震の写真です。市広報課が、地震直後の市内各地の状況を撮影したネガアルバム4冊や教育施設の被害状況、東京都水道局による水道被害調査の写真などがあります。災害写真では一番利用が多いです。

新潟地震は、6月16日午後1時1分に発生しました。粟島南方沖を震源地とするマグニチュード7.5の大地震で、地面の隆起・陥没、地割れや地面から水が噴出す液状化現象などが各地で発生しました。建物の倒壊や沈下・傾斜、地下水噴出や津波による浸水・湛水、火災、電気・ガス・水道・電話の停止など、被害は新潟市の中心部に集中しました。

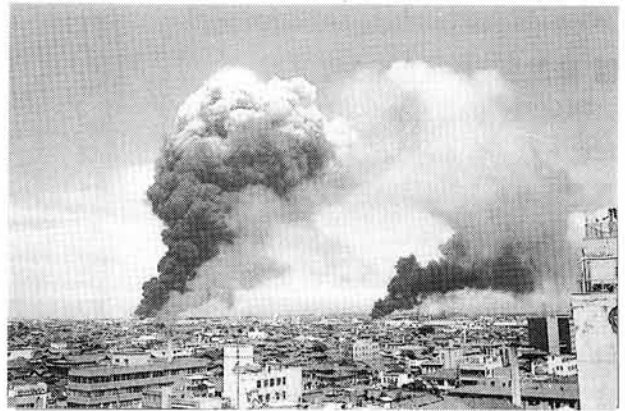
写真1は、地震と同時に上がった原子雲を思わせる黒煙の遠望です。西堀通6番町にあった市役所屋上から撮影されました。

写真左手の大きな黒煙が昭和石油、その手前の白煙が藤島製作所、右手の黒煙が成沢石油のタンク火災です。これらの石油タンクは山の下地区にありました。このうち、昭和石油のタンク群の火災は、周辺の民家に拡大し、約350世帯が類焼する大火災となりました。タンクの火災は、7月1日ようやく鎮火しましたが、この間、市内上空に立ち昇っていた黒煙は新潟地震の象徴でした。

写真2は、地震後の榎谷小路の様子です。手前側が萬代橋側です。

地震後、1時35分に津波の第1波、2時33分に最大の第3波が来ました。津波や堤防破堤で、市内の床上浸水は約1万300世帯に達しました。榎谷小路を含め、約半分は応急排水ポンプで翌日に排水されましたが、海拔0メートル地帯では約1週間浸水が続きました。また、地震直後には津波の来襲にそなえ、榎谷小路などにいた人々の中には、市役所などの高所に避難した人もいました。

写真3は、富山県高岡市から到着した救援物資の輸送トラックです。地震後、直ちに新潟市は災害対策本部を設置し、市役所庁舎も救援物資受領場の一つになりました。受領場には、このような「新潟地震救援物資」と大書した車輛が県内外から連日到着しました。また、給水・保健・運搬・復旧作業など、県内外の自治体・団体・企業から大規模な救援活動をしていただきました。



(写真1) 山の下地区の石油タンク群の火災



(写真2) 浸水した榎谷小路を歩き家路を急ぐ人



(写真3) 市役所に到着した救援物資輸送車

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦時中や戦後の切符・回覧板など、資料の保存についてのご相談や資料所在の情報などがありましたら、歴史文化課歴史資料係までお知らせください。

編集・発行 新潟市総務局国際文化部
歴史文化課
〒951-8550 新潟市学校町通1番町602-1
TEL 025-228-1000 (内線 2255)
FAX 025-225-9309
E-MAIL rekishi@city.niigata.lg.jp